
中国情報（WTO/FTA・貿易・安全・その他）

2008年12月24日号

©2008年11月における中国の大豆市場観測情報

【中国農業部】

中国農業部は先ごろ、2008年11月における大豆市場の観測情報について発表した。その概要は以下のとおりである。

※ この記事は、中国農業部の了解を得て、独立行政法人農畜産業振興機構が翻訳提供しているものです。内容の一部または全部を転載等する場合は、資料元が当機構によるものである旨を必ず明らかにして下さい。

1 2008年の国産大豆は増産の予測

大豆の収穫は基本的に終了した。大豆の播種以降、主産地は降水が十分で土壌の湿度も良好であり、特に東北の産地の大部分で水分条件が前年に比べ大幅に向上し、初霜による大豆生産量への影響も大きくはなく、大豆の大幅な増産に有利な条件下にある。2008年の全国の大豆生産量は、3年連続減少という当初の予測を覆し、前年を上回るものと見込まれている。

2 2008年1～10月の大豆輸入量は大幅に増加、大豆油輸入量は減少

2008年1～10月の中国の大豆輸入量は前年同月比25.6%増の3,082.1万トンとなった。大豆油輸入量は同7.7%減の204.5万トンとなった。大豆粕輸入量は、同1.1倍増の12.1万トンとなった。2008年10月の中国の大豆輸入量は212.6万トンで、前月比48.6%減・前年同月比25.3%減となった。

3 世界の大豆生産量は史上最高に

国連食糧農業機関（FAO）の予測によると、2008/09年度の世界の大豆生産量は2.38億トン、前年比1,750万トン増（7.9%増）となり、史上最高水準を更新する見込みであり、

うち米国の大豆生産量は、同11%増と予測されている。

4 国内の大豆買付価格は下落、国際価格は小幅安

政府による大豆の臨時備蓄政策の発動を受け、2008年11月上旬の主産地における大豆の買付価格はやや上昇した。黒龍江省における平均買付価格は最高で1トン当たり3,720元、前月比8.1%高に達したものの、11月中旬には国産大豆価格は下落し始め、月末には同3,500元前後となり、10月末の3,700元に比べ5.4%下落した。

2008年11月の国際大豆価格の下落幅は大きくはないが、大豆油価格は大幅に下落した。同月の米国シカゴ取引所における1トン当たりの平均価格は、大豆334.1ドル（前月比2.5%安・前年同月比14.4%安）、大豆油745.1ドル（前月比11.4%安・前年同月比25.1%安）、大豆粕293.3ドル（前月比2.6%高・前年同月比7.5%安）となった。

同月の米国メキシコ湾における大豆の離岸価格（本船渡し価格＝FOB価格）は1トン当たり348.8ドルで、これを同2,381元と換算すると、山東地区の国産大豆仕入価格に比べ同1,392元安く、価格差は前月より同512元拡大した。また、山東地区の輸入大豆の通関渡し価格（Duty Paid：CIF＋関税等）は同3,740元で、当地の国産大豆仕入価格に比べ同33元安かった。